

事業名	「ゴミがすべての始まりだった。」発表・報告会
団体名	「ゴミがすべての始まりだった。」
実施概要 (200字以内)	<p>「世界の海ごみ問題」をテーマに、ビーチクリーン活動実施報告に加えて、gomisube kids (ビーチクリーンに参加する子供たち)による「世界の海ごみ問題」に関する発表と外部講師を招いて「沖縄の自然と海の漂着物」に関する基調講演、弊団体が陶真窯(やちむん工場)と取り組むシーグラスを使った陶器の開発に関する報告を行い、参加者、またビーチクリーン活動に参加する各メンバーの沖縄のビーチクリーン活動の現状と世界の海ごみ問題を同時並行的に考える機会、漂着物に関する理解促進に繋ぐイベントとした。</p>
実施内容	<p>gomisube meet up day 2020と称し、弊団体のイベントを開催。以下の式次第の内容で開催した。Gomisube kidsによる「世界の海ごみ問題」に関する発表では、年間800万トンのプラスチックごみが海に流れている現状、海ごみの影響で海の生物たちが苦しむ現状、マイクロプラスチックによる海汚染について小学生が中心となり発表を行った。弊団体の活動報告は、ビジュアルデータ(写真)を集め動画を作成し、放映する形式で発表を行った。年間1.1トンのゴミ回収の実績を報告した。基調講演では、「沖縄の海の自然と漂着物」のタイトルでしかたに自然案内の鹿谷様より沖縄の海に漂着するゴミや自然のものについて詳しい説明があり、沖縄の海ごみ問題をこれまでの調査データを基に科学的見地からも説明をいただいた。実際の漂着物を手に取り説明をする講演は子供たちに大人気でした。そのあとは、ビーチで拾ったシーグラスを沖縄の伝統工芸とコラボした陶器「シームン」の取り組みについて活動状況の報告を行いました。以上のステージプログラムとは別に、会場内では海ごみの展示や活動実績パネル展示、シームンの展示ブースを設け来場者に観覧いただきました。</p> <div data-bbox="320 1339 1209 1559" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>式次第</b>  13:45 開場  14:00 イベント開催挨拶:友寄隆秀  14:10 「世界の海ごみ問題」:gomisube kids  14:25 ゴミすべ活動報告(映像)  14:35 休憩  14:50 基調講演「沖縄の海の自然と漂着物」:鹿谷麻タさん  15:40 「シームン」の取り組みについて</p> </div>



◀ 鹿谷氏による  
基調講演の様子



◀ 展示ブースの  
様子





▲ゴミすべキッズによる「世界の海ごみ問題」の発表

美ら島だより

中部



# プラごみ防ぐ活動を 鹿谷さん講演 児童ら海の世界学ぶ



定期的にビーチクリーン活動を行っている「ゴミすべ」のメンバー＝2月23日、嘉手納町中央公民館



鹿谷麻夕さん

【嘉手納】子どもたちを中心にビーチクリーン活動を展開する「gomisube(ゴミすべ)」(友寄隆秀代表)は2月23日(土)かたに自然案内の鹿谷麻夕代表を講師に迎え、海岸

漂着ごみについて考える講演会を嘉手納町中央公民館で開いた。鹿谷さんは「海のごみ問題はプラスチックのごみ問題といっても過言ではない」とし、美しい海が大切な観光資源である沖縄でも海岸漂着ごみとマイクロプラスチックの問題は深刻で、実効性ある対策が喫緊の課題だと訴えた。鹿谷さんは沖縄を取り巻

く状況を分かりやすく説明するため、表やグラフ、写真を使って解説した。黒潮の流れによって、宮古や八重山地方にごみが漂着する傾向にあると指摘し、「一人一人がペットボトルやレジ袋を使わないなど、プラスチックごみを出さない努力が必要」だと訴えた。ま

た、海は世界中でつながっているため、ごみ問題の改善には近隣諸国との協力が不可欠であると強調した。ビーチクリーン活動を続ける沖縄カトリック小3年の友寄奏流さん(9)は「友達にも積極的に海のごみを拾うように伝えていきたい」と話した。

## ひやみかせ

首里城再建基金

## 洋上大学同窓会 支援金10万託す

兵庫から来県し寄付

【読谷】兵庫県青年洋上大学同窓会(大家重明会長)は前右から3人目)は沖縄地区訪問で訪れた読谷村高志保の「むら咲むら」(國吉眞哲社長)同4人目)で2月22日、首里城復旧復興支援寄付金贈呈式を開いた。

同会は沖縄戦時に沖縄県知事を務めた島田敏さんの縁で始まった兵庫県と沖



沖縄の友愛交流が途絶えていたことから、4年前の沖縄訪問で復活させた。むら咲むらの國吉社長が

琉球新報 2020年3月5日

▲ 当日の様子が琉球新報に掲載されました。

